

学会誌のオンライン配信事始

○ 中野 英彦

兵庫県立大学名誉教授（〒671-2280 姫路市書写 2167）

【はじめに】

演者は、本学会の前身である「化学ソフトウェア学会」の論文誌 Journal of Chemical Software (JCS) のインターネット配信に携わってより、2010 年までの間、本学会の Journal of Computer Chemistry, Japan (JCCJ) のオンライン出版を担当して来た。この度の学会創立 10 周年記念シンポジウムにおいて、15 年あまりの間の苦労話などについてお話をし、記念講演としたい。

【オンライン配信以前】

化学ソフトウェア学会が、化学 PC 研究会から発展して設立されたのは 1992 年であり、設立当初から論文誌として JCS を出版していた。その出版形態は、当時の小規模学会として一般的な、著者がワープロで作成した原稿を、カメラレディで印刷したものであった。また、会員が数 100 人程度の小規模学会にとって、論文のサーキュレーションを確保することはなかなか困難であった。そこで、当時一般的になってきたインターネットによる配信をおこなうことを決定した。

【第一段階】

配信方式は、World Wide Web のブラウザでそのまま閲覧できるものとして、HTML で行うこととし、全文を配信する事とした。しかし、著者に HTML 文書の作成を依頼することは困難と考え、著者からは印刷用の紙出力とは別に、Word による原稿を電子媒体（フロッピーまたは e-mail）の提出を求め、HTML タグ付けは当方で行った。試験公開は 1995 年から、本公開は 1996 年からである。

【科学研究費補助金】

上記の方法では手動で HTML タグ付けを行うので手間がかかるのみならず、印刷体と電子体との乖離が起こる恐れがある。また、当時はまだ小規模学会における電子出版用のソフトなどは全く存在しなかったため、それなら自分たちで開発しようというわけで、文科省の科研費に「インターネットを利用した学術雑誌の電子出版システム」という題目で補助金の申請を行った。幸い採択され、1997 年から 1999 年までの 3 年間で、著者作成の Word による電子原稿から、HTML ファイルのほかに、紙印刷のための組版用の LaTeX ファイルおよびそれから作成される PDF ファイルを統一的に作成するシステムを、小規模学会として何とか実用可能なレベルのものを開発した。

【第二段階】

JCS の第 5 巻(1999 年)から第 8 巻(2002 年)および SCCJ の第 1 巻(2002 年)から第 5 巻(2006 年)までの間は、従来通りの紙による審査済み原稿に対して、著者からの電子ファイルの提供を受け、上記の開発システムにより、冊子体印刷出版および、HTML ファイルおよび PDF ファイルによる電子出版を行うこととした。その際、PDF ファイルは本会独自のサーバーと並行して J-STAGE に搭載する事とした。

【第三段階】

SCCJ の第 6 巻(2007 年)からは、J-STAGE による電子投稿システムを利用し、著者からの投稿および審査を電子化した。

【第四段階】

上記開発されたシステムは、LaTeX の使用など特殊な技能を必要とするため、技術の継承性に問題が生じる恐れがあり、第 9 巻第 2 号以降は日本プリプレス(株)に作業を委託することとした。